

平成21年 3月27日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2005～2008

課題番号：17203043

研究課題名（和文） インクルーシブ社会実現に向けた包括的支援システム開発

研究課題名（英文） Development of comprehensive support system for the realization of inclusive society

研究代表者

四日市 章（YOKKAICHI AKIRA）

筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授

研究者番号：20230823

研究成果の概要：研究成果の概要：インクルーシブ教育を理論的・実践的両側面から捉え、国内外の障害に関する理念・教育制度の展開等について歴史的に解明するとともに、特定地域の幼児・親・教師を対象として、障害のある子どもたちのスクリーニング評価の方法の開発とその後の支援について、長期的な研究による成果を得た。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	14,200,000	4,260,000	18,460,000
2006年度	11,800,000	3,540,000	15,340,000
2007年度	7,300,000	2,190,000	9,490,000
2008年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
年度			
総計	38,900,000	11,670,000	50,570,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：教育系心理学・思想史・社会福祉関係・インクルーシブ社会・5歳児健診・スクリーニング質問票・保育場面観察

1. 研究開始当初の背景

インクルーシブ教育の理論研究は研究者も少なく、総合的に取り組むということには行われがたい状況であった。また、特別支援教育が開始されたが、地域全体を基盤とする、特に幼児の調査診断から、個々の幼児の課題への適切な早期対応に関する研究は、ほとんど行われていなかった。

2. 研究の目的

上記の背景から、障害の理念や・教育制度に関する理論研究を積極的に進めるとともに、つくば市を基盤として、地域に住む幅広い幼児の診断方法を開発し、適切な支援の方法を明らかにする。

3. 研究の方法

研究グループを、理論研究班、社会調査班、

幼児の能力評価研究班、支援実践研究班に分かれて、各グループを中心に研究を進めた。また随時、シンポジウムなどによって研究者間や一般社会の人々との意見交換を図った。

4. 研究成果

上記の各班において、障害の理念・教育制度に関する研究、障害診断方法の開発と障害支援方法に関する研究成果を得た。

(1) 理論的検討では、「教育史・福祉史における〈差異〉の捉え方とそれへの対応の変遷」の検討結果から、「社会資源の不足は、情報の偏りを生み、その結果、理論や施策の多様性や柔軟性が失われることへとつながる場合があること」が考察された。「学校における差異への対応の史的展開」の検討結果からは、「教科学習（認識能力の形成）と生活指導（社会性・道徳性の育成）」という2つ学校の教育的機能のバランスをここの児童生徒のニーズにもとづいて調整すること、それぞれの機能の面で体系的な指導計画を作成していくことが望ましいこと」が考察された。また、「学校における実際的対応」に関する調査研究の結果からは、「教師に対しても、級友に対しても、ニーズのある児童生徒の認知特性などの情報が適切に提供されることで、関わり方に好ましい変化が生じること」が示唆された。

「障害（差異）を寛容する学校や社会」を実現するためには、さまざまな社会資源を活用した情報の「収集・蓄積・吟味・再提示・共有化」を、社会政策決定のレベルから教育実践現場のレベルまで、あらゆる段階で実現することが必要であると考えられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計14件)

米田宏樹「日本における知的障害教育の帰

結点としての生活教育 戦後初期の教育実践を中心にー」障害科学研究, 33, 145-157, 2009年, 査読有

中村満紀男・岡典子「障害児教育における目的・本質論の歴史の変遷とその理論的・実践的意義 序説」特殊教育学研究, 33, 113-126, 2009年, 査読有

園山繁樹「発達障害の心理的アプローチ」Monthly Book Medical Rehabilitation, 103, 43-49, 2009年, 査読無

宮本信也「乳幼児健診システムにおける発達障害児のスクリーニング」小児科臨床, 61, 2630-2637, 2008年, 査読無

宮本信也「発達障害の概要」治療, 90, 2259-2264, 2008年, 査読無

大六一志・長崎勤・園山繁樹・宮本信也・野呂文行・多田昌代・岡崎慎治・東原文子・竹田一則・柿澤敏文・坂尻千恵・菊池麻由子「5歳児発達障害・知的障害スクリーニング質問票における発達的变化およびスクリーニング精度」障害科学研究, 32, 35-46, 2008年, 査読有

益山篤子・東原文子・河内清彦「通常学級における知的障害児に対する級友の態度に及ぼす接触および性別の影響について」障害科学研究, 32, 1-10, 2008年, 査読有

金珍熙・園山繁樹「公立幼稚園における個別の指導計画に関する実態調査 「障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究」指定地域の協力園への質問紙調査」障害科学研究, 32, 139-150, 2008年, 査読有

金珍熙・園山繁樹「公立幼稚園における障害幼児への特別支援体制に関する調査研究 教育委員会担当職員への質問紙調査」特殊教育学研究, 45(5), 255-264, 2008年, 査読有

石川有美・大六一志・長崎勤・園山繁樹・宮本信也・野呂文行・多田昌代・岡崎慎治・

東原文子・竹田一則・柿澤敏文「5歳児発達障害スクリーニング質問票の妥当性の検証」
障害科学研究, 31, 75-89, 2007年, 査読有

野本有紀・長崎勤「5・6歳幼児におけるナラティブの産出と理解 視覚的手がかりがリテリング (retelling) に及ぼす効果」
障害科学研究, 31, 21-32, 2007年, 査読有

大六一志・長崎勤・園山繁樹・宮本信也・野呂文行・多田昌代「5歳児軽度発達障害児スクリーニング質問票作成のための予備的研究」
心身障害学研究, 30, 11-23, 2006年, 査読有

岡典子・佐々木順二・木村素子・趙源逸・米田宏樹・中村満紀男「20世紀アメリカ合衆国の公立学校特殊学級における統合と排除の両義的展開とインクルーシブ教育の源泉序説」
心身障害学研究, 30, 113-128, 2006年, 査読有

河内清彦「障害者等との接触経験の質と障害学生との交流に対する健常学生の抵抗感との関連について—障害者への関心度、友人関係、援助行動、ボランティア活動を中心に—」
教育心理学研究, 54, 4, 509-521, 2006年, 査読有

〔学会発表〕(計5件)

野本有紀・米田宏樹「LD・ADHD・高機能自閉症傾向のある生徒に対する後期中等教育の現状と課題」
日本特殊教育学会第46回大会、2008年9月21日、米子コンベンションセンター

山崎如子・園山繁樹「幼稚園における発達障害児の保育支援に関する事例研究 外部支援者・保育者・保護者の協働による支援の検討」
日本特殊教育学会第46回大会、2008年9月20日、米子コンベンションセンター

長崎勤・中村晋・若井広太郎・吉井勘人「自閉症児における初期社会性の発達支援プログラム(1) 理論的背景とアセスメント」

日本特殊教育学会第46回大会、2008年9月21日、米子コンベンションセンター

松下浩之・村本浄司・園山繁樹「自閉性障害児におけるジャンケンスキルの形成 条件性弁別訓練による指導効果」
日本行動分析学会第26回大会、2008年8月10日、横浜国立大学

東原文子「特別な支援ニーズのある人達のよき支援者を育てるには—「相手の理解」が存在する3つの場面から—」
日本特別ニーズ教育(SNE)学会第13回大会、2007年10月21日

〔図書〕(計12件)

安藤隆男・中村満紀男(編著)「特別支援教育を創造するための教育学」
2009年、明石書店

安藤隆男・中村満紀男(編著)「特別支援教育を創造するための教育学」
2009年、明石書店

真船拓子・杉本正子・結城俊哉・丸山美知子(著)「看護職のための社会福祉・社会保障」
2008年、ヌーベルヒロカワ

長崎勤・前川久男(編著)「シリーズ障害科学の展開 第5巻 障害理解のための心理学」
2008年、明石書店

中村満紀男・前川久男・四日市章(編著)「理解と支援の特別支援教育」
2008年、コール社

植田章・結城俊哉(著)「社会福祉方法原理 現場実践を生きる—」
2007年、高学出版

中村満紀男・四日市章(編著)「シリーズ障害科学の展開 第1巻 障害科学とは何か」
2007年、明石書店

奥野英子・結城俊哉(編著)「シリーズ障害科学の展開 第3巻 生活支援の障害福祉学」
2007年、明石書店

宮本信也・竹田一則(編著)「シリーズ障害科学の展開 第4巻 障害理解のための医

学・生理学」2007年、明石書店

長崎勤・宮崎眞・佐竹真次・関戸英紀・中村晋（著）「スクリプトによる社会的スキル発達支援 LD、ADHD、高機能自閉症児への支援の実際」2006年、川島書店

前川久男（編）「特別支援教育における障害の理解」2006年、教育出版

安藤隆男（編）「特別支援教育の指導法」2006年、教育出版

6. 研究組織

(1) 研究代表者

四日市 章（YOKKAICHI AKIRA）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授
研究者番号：20230823

(2) 研究分担者

河内 清彦（KAWAUCHI KIYOHICO）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授
研究者番号：50251004

園山 繁樹（SONOYAMA SHIGEKI）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授
研究者番号：90226720

長崎 勤（NAGASAKI TSUTOMU）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授
研究者番号：80172518

中村 満紀男（NAKAMURA MAKIO）
東日本国際大学・福祉環境学部・教授
研究者番号：80000280

岩崎 信明（IWASAKI NOBUAKI）
茨城県立医療大学・付属病院小児科・准教授
研究者番号：70251006

(3) 連携研究者

安藤 隆男（ANDO TAKAO）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授
研究者番号：20251861

前川 久男（MAEKAWA HISAO）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授
研究者番号：00115148

宮本 信也（MIYAMOTO SHINYA）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授
研究者番号：60251005

竹田 一則（TAKEDA KAZUNORI）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授
研究者番号：90261768

柿澤 敏文（KAKIZAWA TOSHIFUMI）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・准教授
研究者番号：80211837

藤田 晃之（FUJITA TERUYUKI）
文部科学省・国立教育政策研究所・総括研究官

研究者番号：50261219

結城 俊哉（YUKI TOSHIYA）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・准教授

研究者番号：20306377

野呂 文行（NORO FUMIYUKI）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・准教授

研究者番号：30272149

大六 一志（DAIROKU HITOSHI）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・准教授

研究者番号：10251323

米田 宏樹（YONEDA HIROKI）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・講師
研究者番号：50292462

岡崎 慎治（OKAZAKI SHINJI）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・講師
研究者番号：40334023

東原 文子（HIGASHIHARA FUMIKO）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・講師
研究者番号：60272150

坂尻 千恵（SAKAJIRI CHIE）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・助教
研究者番号：90436262